

令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における野中小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成31年4月から令和元年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・野中小学校では、5年生 46名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

- イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

大阪市立野中小学校

小学校

児童数

46

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	18.62	20.77	37.19	39.85	54.88	9.28	159.46	26.19	56.96
大阪市	16.40	19.40	32.70	39.96	48.15	9.41	149.30	21.44	52.53
全国	16.37	19.80	33.24	41.74	50.32	9.42	151.45	21.61	53.61
女子	16.70	17.74	37.32	35.95	36.16	10.03	141.63	13.84	53.47
大阪市	16.15	18.51	37.54	38.38	38.97	9.65	142.68	13.31	54.47
全国	16.09	18.95	37.62	40.14	40.79	9.64	145.68	13.61	55.59

結果の概要

【体力・運動能力に関して】

男子は、反復横跳び以外はすべて大阪市、全国平均より高い。逆に女子は、ソフトボール投げ以外はすべて大阪市、全国平均より低い。男子と女子では体力・運動能力にかなりの差がみられる。

【運動習慣等に関して】

体力・運動能力でかなり男女差があるが、質問紙に関しては男女の意識にあまり大きな差が見られない。男女ともに肯定的回答が高いのは、「運動が好き」「中学校で授業以外でも自主的に運動したい」である。逆に低いのは「運動部やスポーツクラブに所属している」「最後までやり遂げてうれしかったことがある」「自分には良いところがある」である。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校は体育科を中心にここ数年研究を進めてきた。取り組み内容については以下の通りである。

(1)体育科の授業を通した体力の向上

- ・学習カードの工夫
- ・環境整備
- ・ICT機器の活用

(2)学校生活全体での体力の向上

- ・休み時間の内容の充実
- ・遊具の有効活用
- ・全校集会の活用

これらの取り組みを進めてきて体育の授業が楽しい、好きだと感じる児童が増えてきた。いろいろな場面で運動を取り入れた活動を行ってきたので児童は運動そのものには抵抗がなくなり積極的に体を動かすようになった。

睡眠に関しては、学校保健委員会で睡眠についての講演会や児童の発表等をすることで睡眠についての意識付けをすることができた。

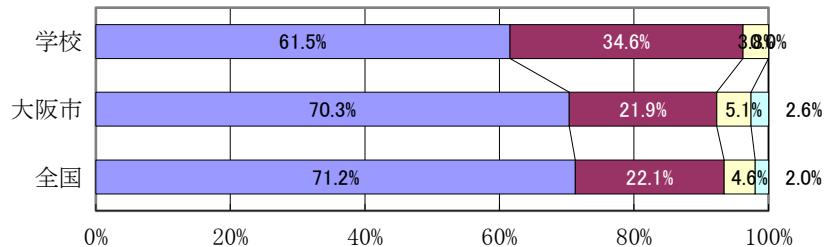
自尊感情を高めることについては、いろいろな場を工夫し児童が少しでも多く成就感・自己肯定感を高められるよう進めてきた。

運動やスポーツについて（男子）

質問番号	質問事項
------	------

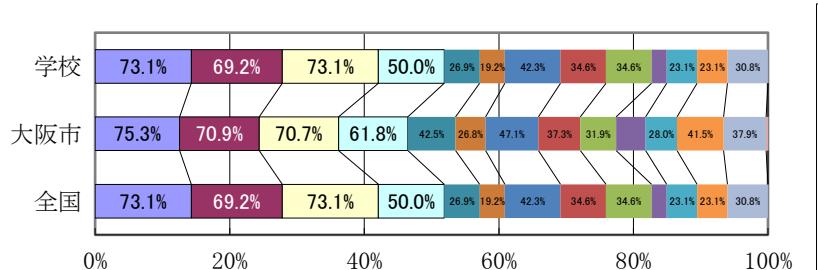
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすること好きですか



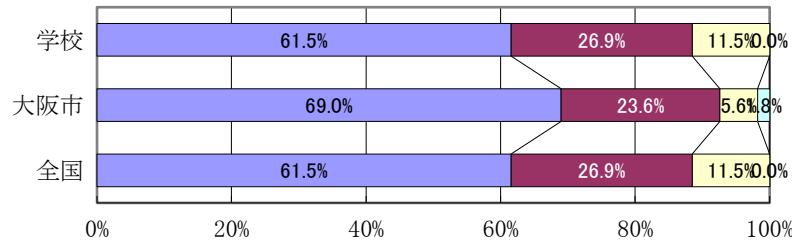
2

運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき



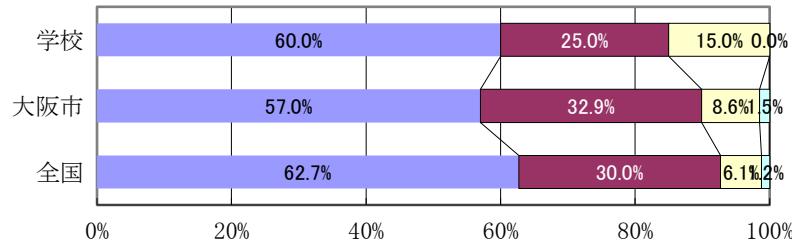
3

運動は大切



4

中学校で授業以外でも主に運動したい



成果と課題

運動やスポーツをすることが好きと答える児童（肯定的回答）は96.1%と大阪市、全国平均よりも多い。その反面運動が大切なと思っている児童は意外に少ない。中学校で授業以外に運動をしたいと答えた児童は88%で大阪市、全国平均より多い。中学校での部活を楽しみにしている児童が多いことがうかがえる。児童が達成感を感じられる授業構築の取り組みの成果のあらわれだと考える。今後は運動の必要性を科学的に伝えていきたい。

今後の取組

今後も今の取り組みを継続的に進めていきたい。

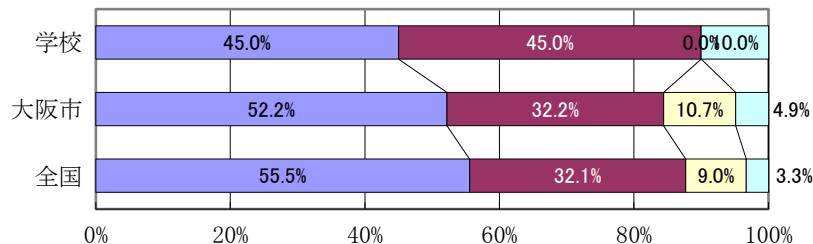
- ①体育科の授業を通した体力の向上
- ②学校生活全体での体力の向上

運動やスポーツについて（女子）

質問番号	質問事項
------	------

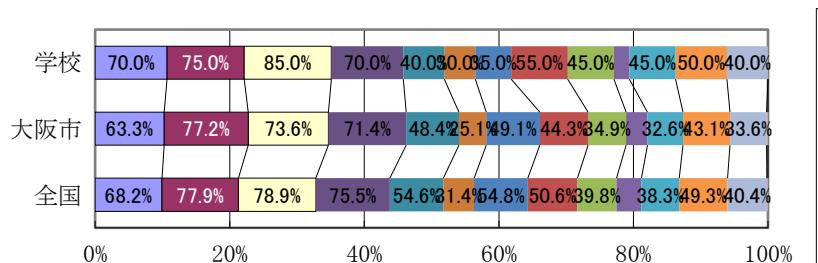
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか？



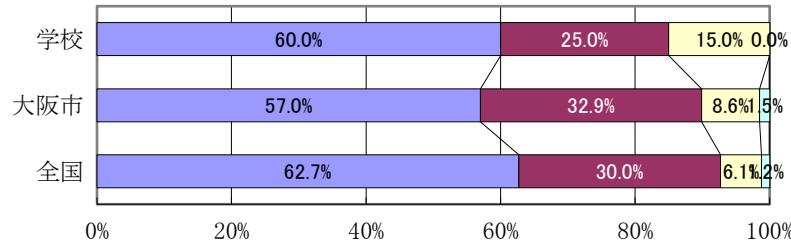
2

運動やスポーツを行って楽しいと感じたとき



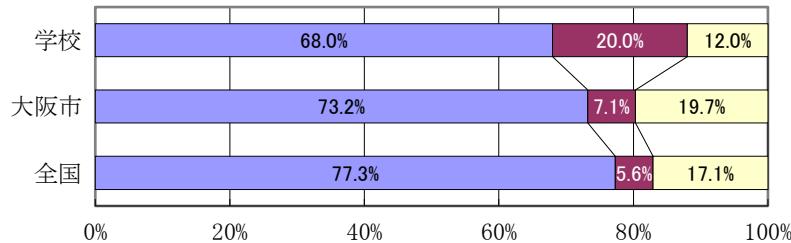
3

運動は大切



4

中学校で授業以外でも自主的に運動したい



成果と課題

運動やスポーツをすることが好きと答える児童（肯定的回答）は90.0%と大阪市、全国平均よりも多い。その反面運動が大切だと思っている児童は意外に少ない。中学校で授業以外に運動をしたいと答えた児童は84.2%で大阪市、全国平均より多い。中学校での部活を楽しみにしている児童が多いことがうかがえる。児童が達成感を感じられる授業構築の取り組みの成果のあらわれだと考える。今後は運動の必要性を科学的に伝えていきたい。

今後の取組

今後も今の取り組みを継続的に進めたい。

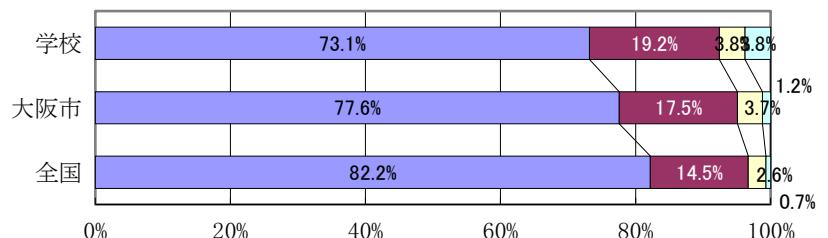
- ①体育科の授業を通した体力の向上
- ②学校生活全体での体力の向上

ふだんの生活について（男子）

質問番号	質問事項
------	------

6

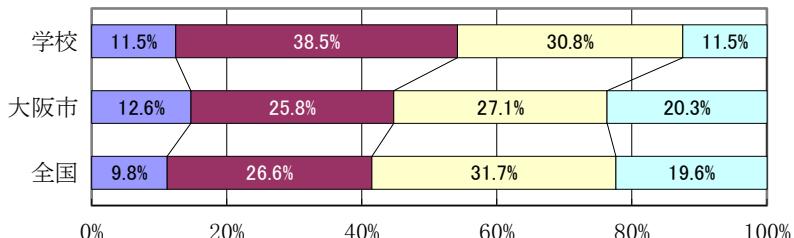
朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



- 毎日食べる
- 食べない日もある
- 食べない日が多い
- 食べない

7

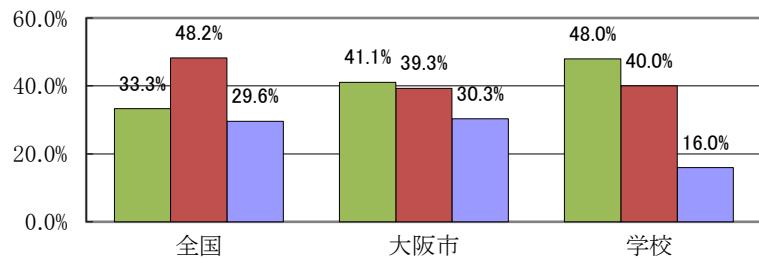
毎日どのくらいねていますか。



- 10時間以上
- 9時間以上10時間未満
- 8時間以上9時間未満
- 7時間以上8時間未満

9

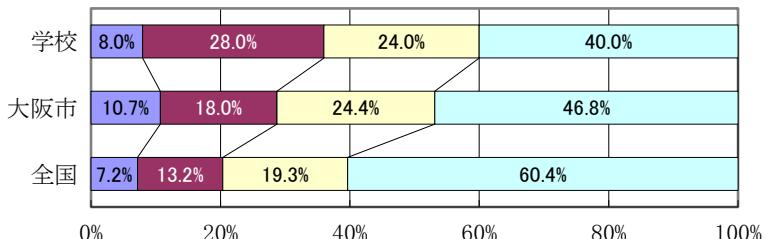
学校の運動部や学校外のスポーツクラブに入っていますか(スポーツ少年団をふくむ)。



- 運動部
- 地域のスポーツクラブ
- 入っていない

10

放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊ぶをふくむ)やスポーツをすることがありますか。



- 行っている
- ときどき行っている
- あまり行っていない
- 行っていない

成果と課題

毎日朝食を食べている児童の割合は92.3%で大阪市、全国平均より少ない。睡眠に関して8時間以上睡眠時間をとっている児童は88.5%と大阪市、全国平均より多い。放課後や帰宅後運動する児童(スポーツクラブを除く)は大阪市、全国平均とほぼ同程度である。学校保健委員会や講演会等で「睡眠」を取り上げてきたので児童の睡眠に関する興味関心は高まってきた。朝食の摂取が100%になるよう家庭への啓発を続けていきたい。

今後の取組

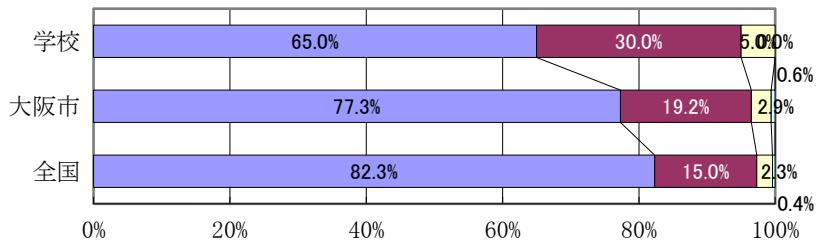
児童が運動する習慣をつけるために休み時間の運動場の使い方を工夫したり、年間を通して「なわとび」「持久走委」等を進め体を動かすことの良さや継続することの良さを感じさせたい。

ふだんの生活について（女子）

質問番号	質問事項
------	------

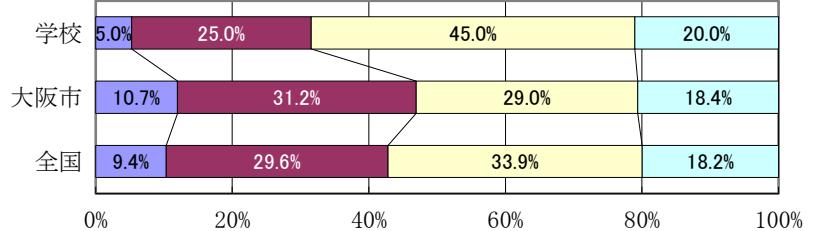
6

朝食は毎日食べますか(学校が休みの日もふくめます)



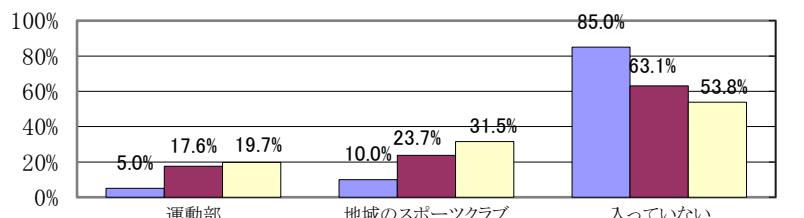
7

毎日どのくらいねていますか。



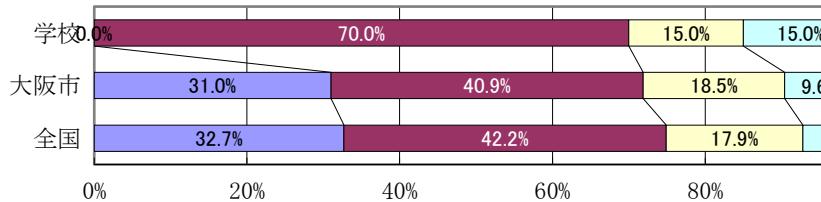
9

学校の運動部や学校外のスポーツクラブに入っていますか(スポーツ少年団をふくむ)。



10

放課後や学校が休みの日に、運動部や地域のスポーツクラブ以外で、運動(体を動かす遊ぶをふくむ)やスポーツをすることがありますか。



成果と課題

毎日朝食を食べている児童の割合は95.0%で大阪市、全国平均より少ない。睡眠に関して8時間以上睡眠時間をとっている児童は80.0%とほぼ大阪市、全国平均と同程度である。放課後や帰宅後運動する児童(スポーツクラブを除く)は大阪市、全国平均より少なく「よくある」と答えた児童は0%であった。学校保健委員会や講演会等で「睡眠」を取り上げてきたので児童の睡眠に関する興味関心は高まってきた。朝食の摂取が100%になるよう家庭への啓発を続けていきたい。

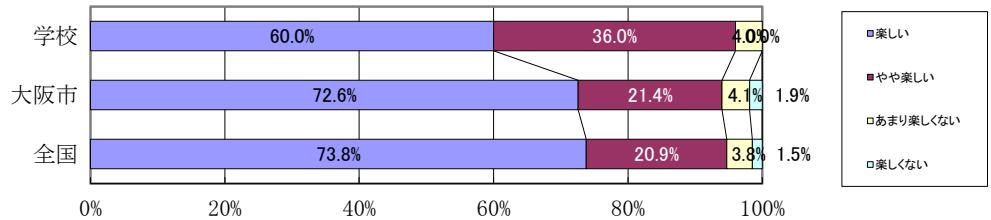
今後の取組

児童が運動する習慣をつけるために休み時間の運動場の使い方を工夫したり、年間を通して「なわとび」「持久走委」等を進め体を動かすことの良さや継続することの良さを感じさせたい。

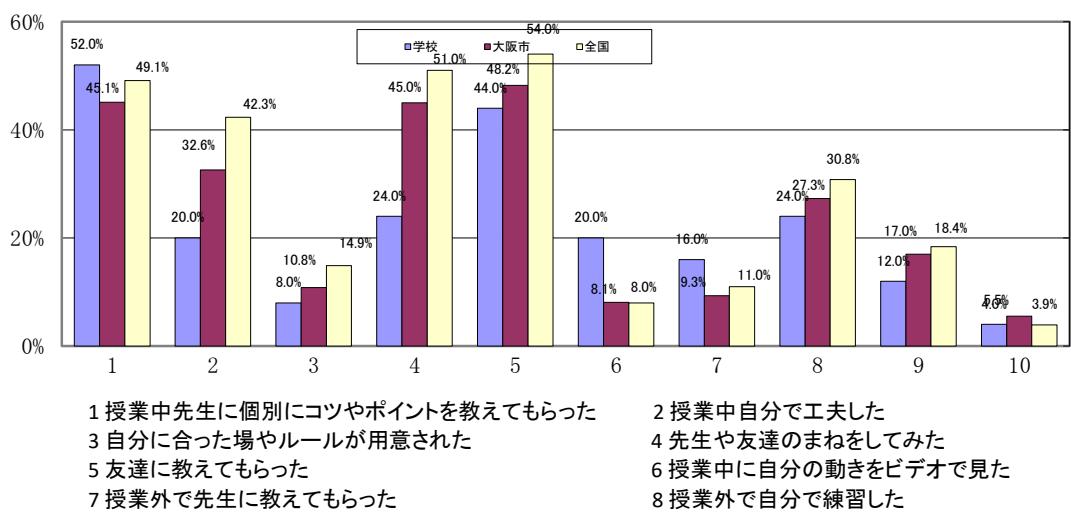
体育の授業について（男子）

質問番号	質問事項
------	------

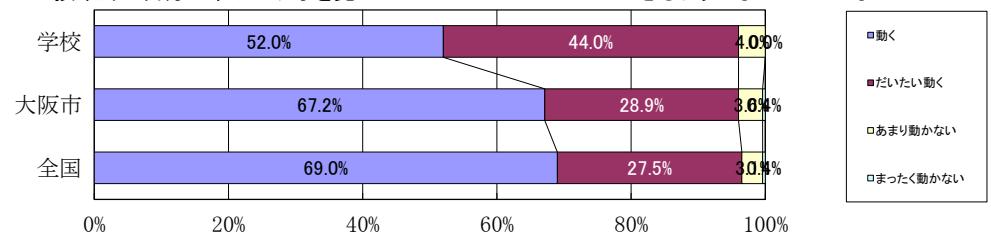
11
体育の授業は楽しいですか



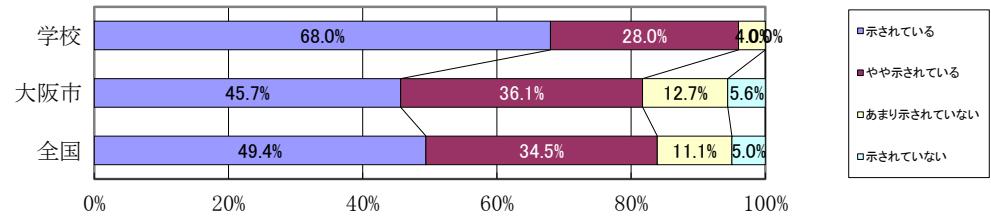
17
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



12
体育の授業では、たくさん動きますか。



13
体育の授業では、授業の始めに授業の目標(目当て・ねらい)が示されているですか。



成果と課題

体育の授業が楽しいと感じている児童は、96.0%で大阪市、全国平均より多い。体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由は「授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」が一番多く、次が「友達に教えてもらった」であった。体育の授業ではよく動くかの質問に対しては96%児童が肯定的回答で大阪市、全国平均とほぼ同程度である。体育の授業で目標が示されているかは肯定的回答が96.0%と大阪市、全国平均より高い。本校としての授業の流れが確立されつつある。

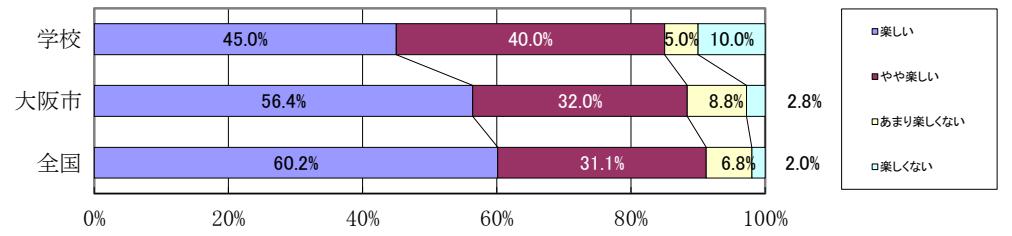
今後の取組

今後もいろいろな機会を利用して体を動かす取り組みを進めていきたい。また、授業研究を中心に体育科における授業の進め方について研究を深めていきたい。

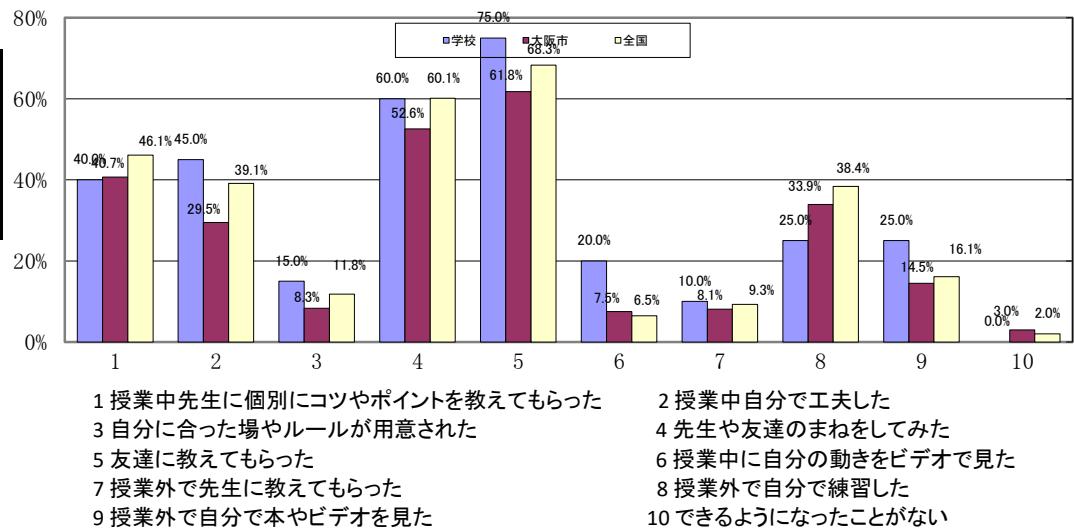
体育の授業について（女子）

質問番号	質問事項
------	------

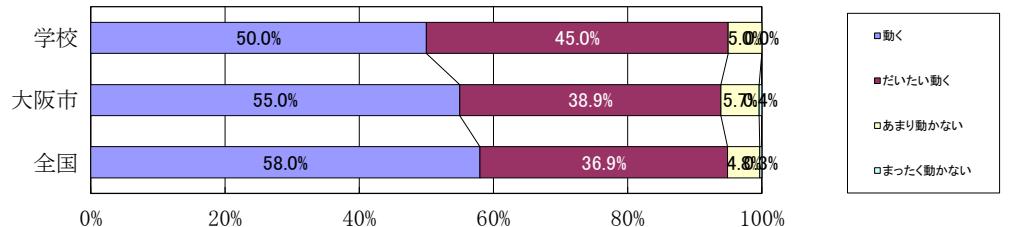
11
体育の授業は楽しいですか



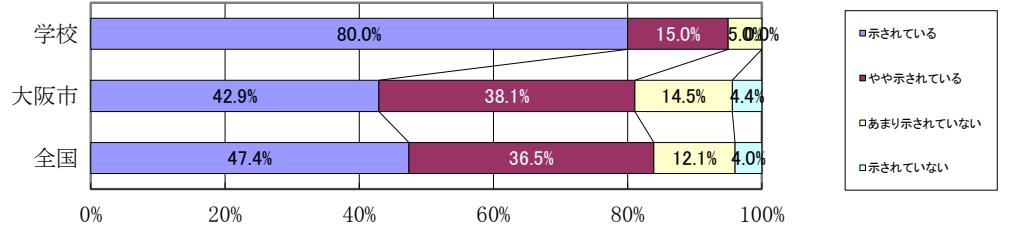
17
これまでの体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか



12
体育の授業では、たくさん動きますか。



13
体育の授業では、授業の始めに授業の目標(目当て・ねらい)が示されていますか。



成果と課題

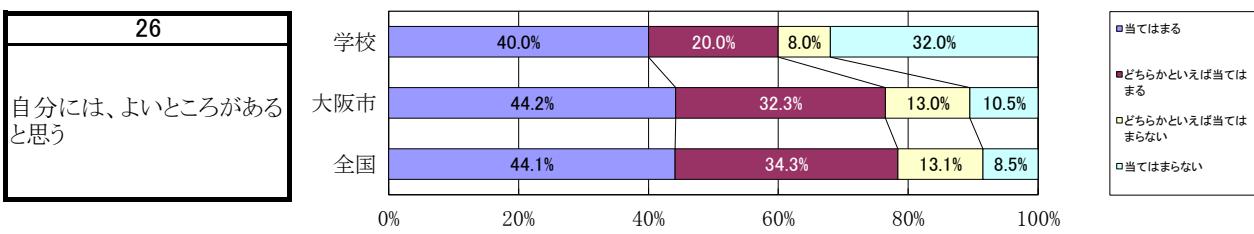
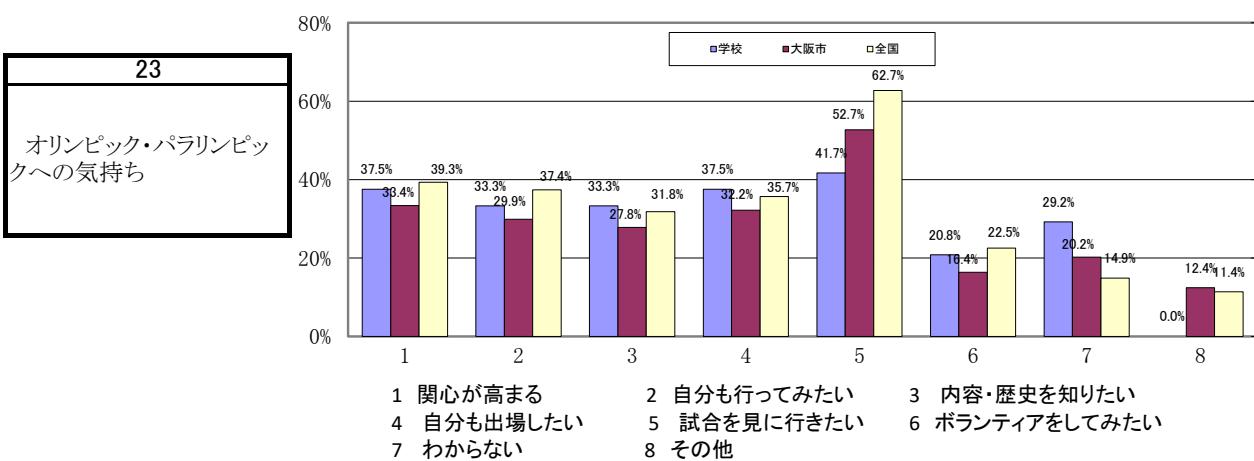
体育の授業が楽しいと感じている児童は、85.0%で大阪市、全国平均より低い。体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由は「友達に教えてもらった」が一番多く、次が「先生や友達のまねをしてみた」であった。体育の授業ではよく動くかの質問に対しては95.0%児童が肯定的回答で大阪市、全国平均とほぼ同程度である。体育の授業で目標が示されているかは肯定的回答が95.0%と大阪市、全国平均より高い。本校としての授業の流れが確立されつつある。

今後の取組

今後もいろいろな機会を利用して体を動かす取り組みを進めていきたい。また、授業研究を中心に体育科における授業の進め方について研究を深めていきたい。

その他（男子）

質問番号	質問事項
------	------



成果と課題

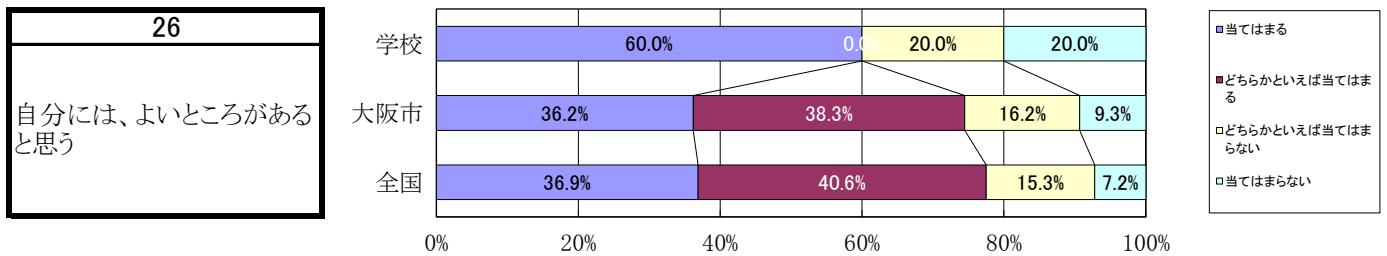
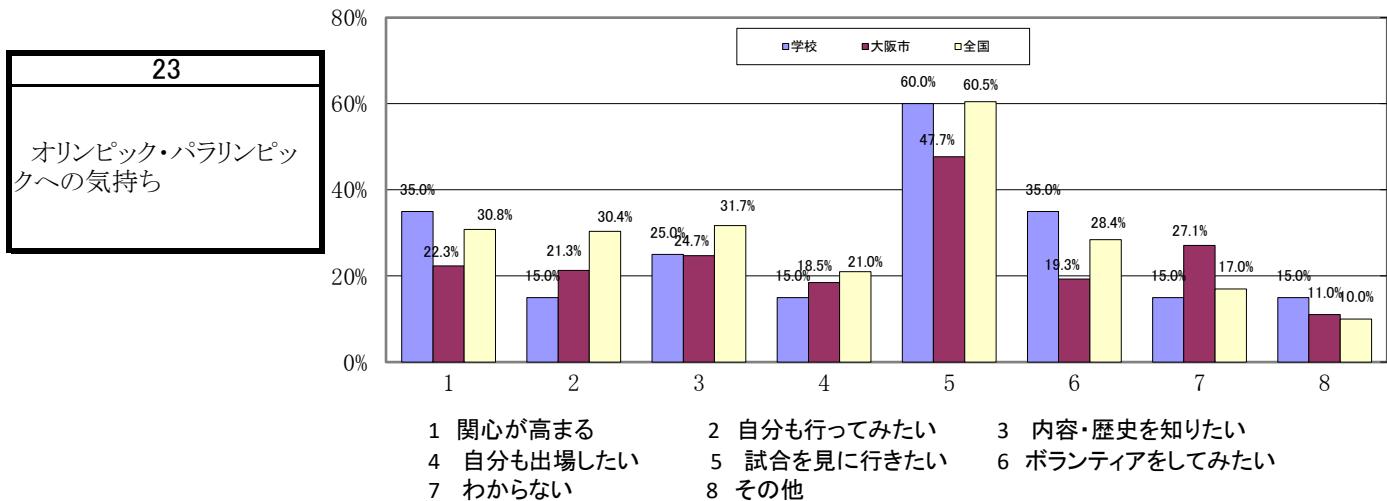
自分にはよいところがあるの設問に対し肯定的回答は60.0%と大阪市72.5% 全国78.4%に比べて非常に低い。長年の本校の課題であるがなかなか改善されない。5年生だけではなく全校的に自己肯定感は低い。

今後の取組

これまでの取り組みを継続して行う。体育科としては、個に応じた課題を設定し成功体験をたくさん経験させる、アクティブラジムを有効活用し児童が主体的に授業にかかわれるようにする。

その他（女子）

質問番号	質問事項
------	------



成果と課題

自分にはよいところがあるの設問に対し肯定的回は60.0%と大阪市72.5% 全国78.4%に比べて非常に低い。長年の本校の課題であるがなかなか改善されない。5年生だけではなく全校的に自己肯定感は低い。

今後の取組

これまでの取り組みを継続して行う。体育科としては、個に応じた課題を設定し成功体験をたくさん経験させる、アクティブタイムを有効活用し児童が主体的に授業にかかわるようにする。